

NEWS

The Kagawa Museum

vol.61

香川県立ミュージアム
ニュース

2024 春号



香川県指定有形文化財

伊藤若冲《百花の図》のうち 襖絵

江戸時代 金刀比羅宮蔵

《百花の図》は、金刀比羅宮奥書院の上段の間の空間を飾る。襖を閉じると201点（74種）の花が四方を取り囲み、あふれる様子から百花と呼ばれる。若冲49歳の作で、代表作の国宝《動植綵絵》（皇居三の丸尚蔵館収蔵）と同時期に制作された。濃厚で緻密な筆遣いの植物には病葉（虫喰いや枯れ葉）も描かれるなど、生命の盛衰が表されている。

Contents

特集 特別展「皇居三の丸尚蔵館名品選 美が結ぶ 皇室と香川」

調査研究ノート vol.47 主基齋田耕牛・千代号を追って

特別展開連企画 皇室と高松松平家 一大正時代の行啓

特別公開 天皇の写経 一般若心経

展示室だより 学ぶ高松藩 一 講道館と考信閣

すごろくと子どもたち

生誕120年 イサム・ノグチ

ミュージアムガイドンス vol.49 体験学習室を楽しむ!

れきみんだより 瀬戸内海国立公園指定90周年を迎えて

特別展 皇居三の丸尚蔵館名品選

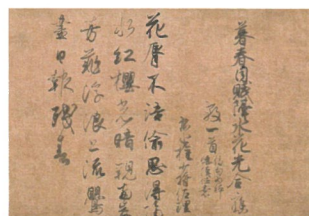
美が結ぶ 皇室と香川

皇室と香川を結ぶ美をひもとくと、 香川の歴史がよみがえる!

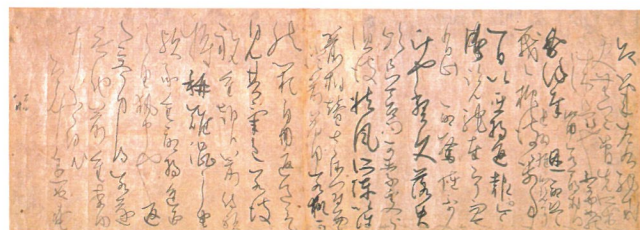
本展は、皇居三の丸尚蔵館が収蔵する皇室ゆかりの美術品のうち、書跡の名品や中世から近代の絵画の名品、近代の工芸や彫刻から、香川県をはじめとする四国にゆかりのある作品を中心に展示します。皇室の美術品と関りの深い香川の文化財を交え、全64件の作品により皇室と香川を結ぶ美の世界を展覧します。ここでは、本展でしかご覧いただけない、一期一会の“必見”ハイライトを紹介します。

その1. 能筆が集う。教科書で習った「三跡」の書が並び立つ。

古くから日本では、中国から学問や芸術などの文化が取り入れられ、平安時代には漢字から姿を変えた日本独自の文字（ひらがな）が生まれました。書に優れた「三跡」と称される小野道風（894～966）、藤原佐理（944～998）、藤原行成（972～1027）の時代に、100年ほどの歳月を経て、中国流（唐様）の書をもとに日本流（和様）の書が完成しました。本展では、「三跡」をさかのぼる能筆「三筆」の一人である讃岐生まれの空海の筆とされる書跡と「三跡」三人の名筆が一堂に会し、日本の書の源流を間近にご覧いただけます。



若き日にしたためた春の漢詩《詩懷紙》(国宝)と壮年時の《恩命帖》を展示。ふたつの書の筆あとからは、人生の来し方行く末までも垣間見えます。



(上) 藤原佐理 詩懷紙(国宝) 当館蔵
(下) 藤原佐理 恩命帖★

その2. 初めて、希代の天才絵師 伊藤若冲の金刀比羅宮の伊藤若冲《百花の図》が



伊藤若冲 百花の図のうち襖絵 金刀比羅宮所蔵 香川県指定有形文化財

伊藤若冲（1716～1800）といえば、圧倒的な画風で異彩を放った江戸時代を代表する絵師です。金刀比羅宮奥書院の《百花の図》は49歳の時の制作で、わずか六畳の間の四方の壁と襖に201点（74種）の花が、整然としながらも埋め尽くすように描かれた大作です。およそ10年の歳月をかけた若冲の真骨頂《動植綵絵》*（皇居三の丸尚蔵館収蔵）を描いている最中に制作されました。私的な生活空間を彩る《百花の図》は柔らかな筆跡ですが、両作に共通する濃厚で緻密な植物は華やかな一方、虫喰いやノ

その3. 壮大なスケールが圧巻! 新時代を壽ぎ、近代日本絵画の巨匠竹内栖鳳が描く。



竹内栖鳳 大正度 主基地方風俗歌屏風★

天皇の即位後初めての新春祭（大嘗祭）で神に供える新穀を収穫する地方として、占いによって東の地域から悠紀国、西の地域から主基国が決められる儀式があり、大正天皇即位の際に、主基国として香川県が選ばれました。大嘗祭後の節会（大饗の儀）には、悠紀・主基両地方の風景を詠んだ和歌と絵を表した屏風が飾られます。この儀式は、昭和、平成、令和の大札にも受け継がれています。本作は、和歌を宮内省御用掛の子爵・入江為守

国宝《動植綵絵》と出会う。



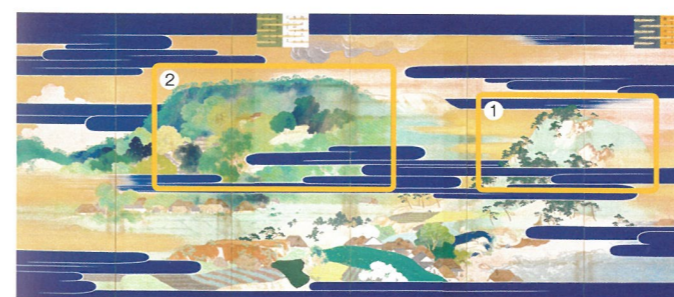
伊藤若冲 動植綵絵 向日葵雄鶏図(国宝)★

種子になる部分や周囲の花びらの描写がよく似ています。

枯れ葉が描かれるなど、生命の盛衰が表されています。また、両作を見比べると類似する描写がいくつも見られます。《百花の図》と《動植綵絵》をともにご覧いただくまたとないこの機会に、ぜひ両作の植物の姿にもご注目ください。

*《動植綵絵》30幅のうちから、2幅を全期間展示予定です。

主基国・讃岐を



右から、①春霞の九十九山、②夕立の琴平山、③刈穂の財田、④雪の天霧山が描かれる。屏風の高さはなんと約2.5m。

(1868～1936)が詠み、絵を帝室技芸員で日本絵画の西の雄・竹内栖鳳（1864～1942）が描きました。二人は香川の地を訪れ、各地の風景を四季とともに詠み、描いています。本作は標準的な屏風よりはるかに大きく、その絵は伝統的なやまと絵の技法で横一文字にたなびく霞が描かれ、その向こうには瑞々しい主基国・讃岐の風景が広がっています。

トピックス1 崇徳天皇と西行

四国で唯一、香川県には天皇陵があります。崇徳天皇白峯陵です。12世紀に、諸国を行脚した西行は崇徳天皇の御陵に祈り、空海の足跡を善通寺に尋ねました。本展では、西行の生涯を物語る《西行物語絵巻》より讃岐の旅の場面を紹介し、物語を進める尾形光琳（1658～1716）の優美な筆遣いも見どころです。



尾形光琳 西行物語絵巻 巻三(部分)★

トピックス2 至高の美、夢の競演

皇居三の丸尚蔵館と金刀比羅宮の作品の競演は若冲だけではありません。近代黎明期の画家・森寛斎（1814～1894）や高橋由一（1828～1894）の作品も双方から出品されます。また、金刀比羅宮表書院の絵画にちなみ、皇居三の丸尚蔵館収蔵作品より円山応挙（1733～1795）、邨田丹陵（1872～1940）の作品も出品されます。



高橋由一 読本と草紙 金刀比羅宮所蔵

○皇居三の丸尚蔵館

上皇陛下と香淳皇后によって国に寄贈された皇室ゆかりの美術工芸品の保存、研究、公開のため、平成5年、皇居東御苑内に宮内庁三の丸尚蔵館として開館し、昨年（令和5）名称も新たにリニューアルオープンしました。収蔵品は約6,100件（約2万点）に及び、古代から近現代までの各時代とさまざまな分野にわたり、貴重な作品を数多く収蔵しています。令和8年度の全面開館までの間、より多くの方々に皇室と日本文化に親しんでいただくため、同館の収蔵品を紹介する展覧会を全国各地で開催しています。



皇居三の丸尚蔵館外観

西日本初出品の作品もたくさん! この機会をお見逃しなく!



円山応挙 旭日猛虎図(部分)★

展覧会情報

特別展 皇居三の丸尚蔵館名品選
美が結ぶ 皇室と香川

会 期：4月20日(土)～5月26日(日)
会 場：特別展示室・常設展示室1・4・5
(関連企画展示 常設展示室2、特別公開 常設展示室3)
開館時間：9:00～17:00(入館は16:30まで)
休 館 日：月曜日、5月7日(火) *4月29日(月祝)、5月6日(月休)は開館
観 覧 料：1,400円 前売・団体(20名以上)1,100円
*高校生以下、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方は無料

* 関連イベントは巻末インフォメーションをご覧ください。

★=皇居三の丸尚蔵館収蔵

特別展 皇居三の丸尚蔵館名品選 美が結ぶ 皇室と香川

にあわせて もっと知りたい 皇室と香川

Notes for Research

調査研究ノートvol.47

主基齋田耕牛・千代号を追って

綾川町山田上地区(旧 綾歌郡山田村)ののどかな田園地帯に残る大正天皇大嘗祭の主基齋田跡。その近くに「主基齋田耕牛千代号碑」と題する石碑があります。春の特別展でも紹介される主基齋田ですが、ここではその齋田を耕し、碑に記された耕牛・千代号の一生をたどります。

耕牛千代号

大嘗祭は天皇が即位後初めて行う新嘗祭で、神に新穀を供え、自らも食す神事を中心とします。大正天皇の即位に伴う大嘗祭では、使用する米を収穫する地域として、東の悠紀国に愛知県、西の主基国に香川県が選ばれます。その主基国・香川に設けられた齋田で田を耕した牛が千代号でした。千代号は牛の名産地として知られる岡山県新見町(現 新見市)で明治44年(1911)7月6日に生まれた牝牛です。香川県内で育てられ、大正4年(1915)4月に綾歌郡産牛組合の品評会で一等賞に輝くと、その日のうちに齋田耕作者の岩瀬辰三郎に購入され千代号と名付けられました。しっかりとした体格と穏やかな性格が評価されての受賞でした。

齋田での作業

齋田では県・郡の指導のもと、神事上・衛生上の清浄を保つため細心の注意を払って作業が行われました。不浄とされた下肥(人糞尿からなる肥料)を避けて最新の化学肥料が用いられ、山田村と周辺の村々では消毒の励行や「赤痢予防液」の接種が行われます。そして千代号にも、具体的な方法是不明ながら「飼養上特別の注意」を払い排泄回数を減らす飼育が行



田植式で齋田を耕す千代号
「大嘗祭主基齋田記念絵葉書」 大正4年 当館蔵

われ、耕作中は排泄物を受ける容器を用いることになりました。

こうして大正4年5月27日、5万人を超える大観衆が見守る中で田植式が行われます。普段の農作業とは大きく異なる状況でしたが、碑文によると千代号は「姿勢清高、拳措は終始肅然として乱れず」(姿勢は清らか、立ち居振る舞いは終始厳かであつた)という姿で犁を曳き、人々は新たな天皇の即位を祝う喜ばしい吉兆、祥瑞と称えました。

その後の千代号

この時、千代号は妊娠しており、同年7月に立派な仔牛を出産しました。その後、千代号は齋田を記念して設立された主基農林学校(現 香川県立農業経営高等学校)にて飼育され、昭和9年(1934)1月5日に死にました。翌年には、綾歌郡畜産組合(産牛組合から改称)が千代号を記念するため前述の石碑を建立しています。なお、千代号は死後、主基農林学校の教員・生徒の手によって骨格標本となりました。齋田耕牛として香川の農業の名誉を担った千代号は、今も農業経営高校で大切に守られています。

(学芸員 藤井 俊輔)

主要参考文献：香川県編「主基齋田記録」(香川県、1918年)
香川県綾歌郡編「主基齋田記録」(香川県綾歌郡、1918年)



主基齋田耕牛千代号碑

特別展関連企画
常設展示室2

皇室と高松松平家 — 大正時代の行啓

4月16日(火)~5月26日(日)

江戸時代、東讃岐12万石を治めた高松松平家は、水戸徳川家の筆頭分家として高い家格を与えられ、幕府の中でも重要な役割を担っていました。将軍の名代として京都への使者に任じられることもあり、歴代の高松藩主が天皇家から拝領した品々は今日まで大切に保管されてきました。

明治時代になり、華族となった松平家は、廃藩置県後、東京に住むことになります。旧高松城は、兵部省(のち陸軍省)の管理下に置かれることになりましたが、明治23年(1890)2月、払い下げを受けて、再び松平家の所有になりました。



左 披雲閣大書院
〔摂政宮殿下御来県記念帖〕より
大正11年 松平公益会保管

右 銀花瓶(摂政宮下賜)
大正11年 高松松平家歴史資料

(学芸課長 野村 美紀)

特別公開

天皇の写経 一般若心経

4月16日(火)~5月26日(日)

春の特別展「皇居三の丸尚蔵館名品選」の会期中、空海室(常設展示室3)では光厳天皇(1313~64)写経の『般若心経』3巻を特別公開します。

今、多くの人に写経される『般若心経』ですが、正式には『般若波羅蜜多心経』という唐の玄奘が漢訳した經典で、すでに退位し太上天皇(上皇)であった延元元年(1336)3月に写経されました。伊勢神宮、石清水八幡宮、春日大社の三社へ奉納するために写したことが、各巻末の奥書からわかります。その背景について当時の政治状況に翻弄された立場からの解釈もありますが、「一字三礼」からは真摯に経文を写し、「令救三界流転之衆生」からは迷える衆生が救われることを願う天子としての姿がうかがえます。平安時代、嵯峨天皇も疫病が流行った際、空海の助言により『般若心経』を写経したといわれます。

北朝初代の天皇とされ、後に仏道に入った光厳天皇の宸翰。



重要文化財 光厳天皇宸翰奉納心経 のうち「伊勢太神宮奉納」
南北朝時代 当館蔵

実際には三社へは奉納されず、水戸徳川家から高松松平家に譲られ伝来しました。実直な筆墨とともに、銀箔を散らした当初の表紙が伝わるのも見どころです。

(主任専門学芸員 三好 賢子)

展示室だより

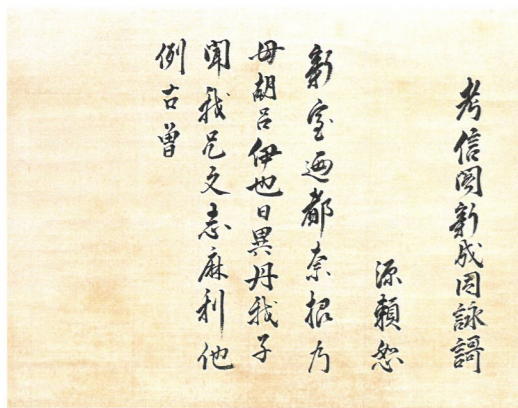
常設展示室1

学ぶ高松藩 — 講道館と考信閣

6月1日(土)~7月15日(月・祝)

江戸時代、藩にとって「学ぶ」ことは政治と並んで重要なことでした。「学び」の場である藩校が整備されたり、藩主が先頭に立って諸学問の探求が行われたりしました。高松藩の藩校・講道館、歴史編さんに取り組んだ考信閣をはじめとして、高松藩の学問への取り組みについて紹介します。

(主任専門学芸員 御厨 義道)



考信閣新成因詠歌 江戸時代 高松平家歴史資料

常設展示室2

アート・コレクション

生誕120年 イサム・ノグチ

- I 5月28日(火)~7月15日(月・祝)
- II 7月19日(金)~9月1日(日) 夏休み子どもミュージアム
- III 9月10日(火)~12月1日(日)
- IV 12月3日(火)~3月2日(日)
- V 3月11日(火)~

イサム・ノグチ(1904~88)は、アメリカで生まれ、世界的に活躍した彫刻家です。日本では香川県牟礼町(現高松市)にアトリエを構えました。生誕120年の機会に、収蔵品から《中国袖》をはじめとするブロンズ作品などを紹介します。イサム・ノグチの作品をたっぷりとお楽しみください。

(主任学芸員 日置 瑤子)



イサム・ノグチ《中国袖》
1972頃~87年 当館蔵
I・II期展示

©2024 The Isamu Noguchi Foundation and Garden Museum/ARS, New York /JASPAR, Tokyo X0205

常設展示室1

夏休み子どもミュージアム
すごろくと子どもたち

7月19日(金)~9月1日(日)

すごろく(絵双六)は、サイコロを振り、出た目によってコマを進めてゴールを目指すボードゲームです。江戸時代から人びとに親しまれ、大正時代からは子ども向け雑誌の正月付録として人気を博しました。

明治時代~昭和時代のすごろくを中心に、昔の子どもたちの世界をのぞいてみましょう。

(主任学芸員 黛 友明)



少女学校家庭双六 大正10年(1921) 当館蔵

ミュージアムガイダンス vol.49

体験学習室を楽しむ!

1階の体験学習室は、子どもから大人まで楽しみながら学ぶことのできる空間です。だるま落としやメンコといった懐かしい遊び、触れる機会の少ない琴や笛などの和楽器を数多く取り揃えています。本年1月から再開した、十二単や鎧兜の着付け体験もおすすめです。実際に手に触れて、着てみることで、歴史や文化を肌で体験することができます。体験学習室のご利用方法については、当館ホームページでご確認ください。

(主任主事 石井 優美)



着付け体験の様子

瀬戸内海国立公園指定90周年を迎えて

神懸山保勝会の設立と国立公園指定運動

神懸山保勝会は、明治31年(1898)に小豆島の寒霞溪の保護を目的に設立されました。小豆郡役所の後押しもあり、桜や楓の植樹、展望所の新設、道路の補修などを行うとともに、明治末年には関西新聞大会の招致や太平洋画会会員等の招へいにより、寒霞溪や島内の名勝旧跡の宣伝活動を広く行いました。

同じころ、長尾名村(現 さぬき市)出身の小西和(1873~1947)は『瀬戸内海論』(明治44年刊)を著し、瀬戸内海を「世界の公園」にすべきと主張しました。その後、大正12年(1923)には内務省衛生局によって瀬戸内海を含む16の国立公園候補地が発表され、各地で指定合戦や案内書が作られるなど、観光への期待が一気に膨みました。

県内でも神懸山保勝会が昭和3年(1928)、国立公園指定を目指して高松市並びに屋島町に連携を呼びかけ県を動かし、昭和4年5月には香川県国立公園協会が設立されました。続いて昭和6年には香川・岡山・広島三県連合による瀬戸内海国立公園期成同盟会が組織されて指定運動が展開され、昭和9年3月16日、日本で最初の国立公園として備讃瀬戸を中心とする瀬戸内海国立公園が指定されました。その運動の魁となったのが神懸山保勝会の活動だったのです。

その間、県内では相次いで保勝会が組織され、名勝の保全と観光に向けての整備が行われました。三豊郡保勝会(現 観音寺市・琴弾公園)、仁尾保勝会(現 三豊市・仁尾葛島平石)、塩飽本島村保勝会(現 丸亀市・本島)、城山保勝会(現 東かがわ市・引田城山)などが、観光客向けの案内冊子や絵葉書などを作成したり、遊歩道・展望台の整備などを行ったりしました。

香川県師範学校郷土館(現香川大学)の瀬戸内海展示

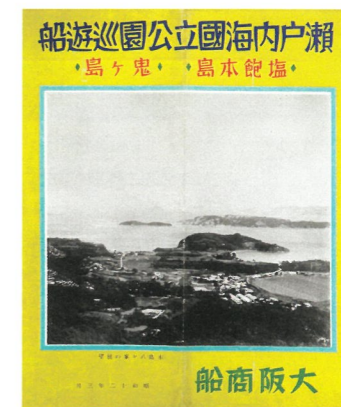
昭和8年に郷土教育研究の推進を目的に設置された香川県師範学校郷土館では、香川県の「開化史」「自然」「経済」とともに、指定前ではありましたが「国立公園瀬戸内海の展望」が主テーマの一つとして設定・展示されました。陳列品としては瀬戸内海の家図・古絵図写真・遊覧(観光)地図、内海沿岸の地理模型(広島県鞆・丸亀~琴平・塩飽~三崎(荘内)半島・小豆島)とともに、教員が描いた瀬戸内海国立公園の景勝地13ヶ所の油絵が展示され、図画教育に供されました。国立公園瀬戸内海を研究し理解することは、郷土教育にとっても重要なテーマだったことがうかがえます。

自然保護と健康増進

国立公園制度初期には、自然の保護は勿論ですが、園地を活用して国民の健康増進をはかることが眼目とされました。そのため、景色を愛でる展望地へのハイキングが推奨され、各地でハイキングコースや船旅と合わせた観光商品の開発が行われました。特に大阪商船の果たした役割は大きく、大阪・神戸を出港し、船中泊を基本にした塩飽本島や女木島(現 高松市)の展望地をハイキングする弾丸ツアーが企画されています。また、香川県や高松市でも独自にハイキングコースを紹介するパンフレットが作成され国立公園の活用が推進されました。

瀬戸内海国立公園は手つかずの大自然ではなく、人のくらしと同居した国立公園です。その保全と活用は人間の叡智なくして成り立ちません。その際、地域に住む人々自身による保全活動であるかつての保勝会のような活動、そしてその前提となる教育活動が、国立公園の未来にとって肝要であることは間違いなく、「歴史に学ぶ」博物館の果たすべき役割も大きいと考えます。

(瀬戸内海歴史民俗資料館 専門職員 田井 静明)



「瀬戸内海国立公園巡遊船 塩飽本島・鬼ヶ島」昭和12年 香川県立ミュージアム蔵



「高松中心のハイキングコース」昭和13年 瀬戸内海歴史民俗資料館蔵

『ミュージアムNEWS』れきみん開館50周年記念号を3月末に発行します!

SCHEDULE

香川県立ミュージアム						瀬戸内海歴史民俗資料館	
歴史展示室	常設展示室1	常設展示室2	常設展示室3	常設展示室4・5	特別展示室	瀬戸内ギャラリー	
4月	讃岐の武者 4/7	ホンマ・タカシ 4/14	(特別公開) 弘法大師空海の生涯と事績	建築アーカイブ 4/7	皇居三の丸尚蔵館名品選 美が結ぶ 皇室と香川	伝統と創造 讃岐のり染	
	4/20	4/16		4/20			
	5月	美が結ぶ 皇室と香川 5/26		5/26			5/26
	6月	6/1		5/28			7/9
7月	7/19	7/19	第88回 香川県美術展覧会 8/4	栗島から 世界へ 9/1			

特別展「皇居三の丸尚蔵館名品選 美が結ぶ 皇室と香川」関連イベント

記念講演会 無料・要事前申込

会場：地下1階講堂 定員：230名(先着順)

1. 日本の書の成立と楽しみ

日本に文字が渡来した後、漢詩や漢文を作り、中国風の書を使うようになった時代から、日本風の文字を展開するまでの流れをお話しします。読めなくても楽しめる書の魅力を、造形・線・連綿・余白・空間構成などから紹介します。

日時：4月20日(土) 13:30~15:00
講師：島谷弘幸氏(皇居三の丸尚蔵館館長)
申込期間：3月22日(金)~、定員になり次第終了

2. 若冲花鳥画の魅力

さまざまな画題やモチーフの作品を独特の表現で多数残した伊藤若冲の画業について、主に金刀比羅宮《百花の図》や皇居三の丸尚蔵館収蔵《動植綵絵》などの花鳥画を中心に、その魅力を紹介します。

日時：5月11日(土) 13:30~15:00
講師：朝賀浩氏(皇居三の丸尚蔵館副館長)
申込期間：4月12日(金)~、定員になり次第終了

ワークショップ 有料・要事前申込

1. 描くワークショップ「若冲にまねぶ」

本展展示の若冲作品《動植綵絵》《百花の図》にならい、植物画に挑戦します。

日時：4月27日(土) 13:30~16:00
講師：中村譲氏(尾道市立大学教授・日本美術院同人)
会場：地下1階研修室 参加料：2,000円
定員：20名 ※応募者多数の場合は抽選
申込期間：3月21日(木)~4月11日(木)

2. 食べるファミリー・ワークショップ「ほく・ホクご飯を炊こう」

香川県のお米には皇室との物語があります。物語を学びつつ、香川県で大切に育てられた特Aランクのお米を用いて、炊飯とおにぎり作り体験をします。

日時：5月19日(日) ① 9:00~10:30 ② 11:00~12:30
講師：永原三千博氏(五つ星 お米マイスター Prof.)
会場：地下1階実習室 参加料：1,500円
定員：12名 小学生とその保護者 ※応募者多数の場合は抽選
申込期間：4月3日(水)~4月24日(水)

講演会の申込方法
電話、「香川県電子申請・届出システム」(*)を利用したインターネットから。

ワークショップの申込方法
往復はがき、「香川県電子申請・届出システム」(*)を利用したインターネットから。1回2名まで申し込み可。往復はがきの場合は氏名、電話番号、ワークショップ名を明記してください。

※「香川県電子申請・届出システム」を利用する場合
香川県立ミュージアムホームページ右下の「関連リンク」から「[香川県] 電子申請・届出システムのページへ」をクリックしてください。

第88回 香川県美術展覧会

香川県美術展覧会は公募による美術展覧会です。現代の美術シーンは多様な表現にあふれています。第88回展では、絵画・立体・工芸・書・写真の5部門で作品を募集します。また、会期中に若手作家支援プロジェクトも開催します。ジャンルにとらわれない、新たなチャレンジをお待ちしています。



第87回展(絵画)の様子

会期：第1期(絵画・立体) 7月9日(火)~7月15日(月・祝)
第2期(工芸・写真) 7月19日(金)~7月25日(木)
第3期(書) 7月29日(月)~8月4日(日)
若手作家支援プロジェクト作品展示 7月9日(火)~8月4日(日)

会期中無休

観覧料：一般750円、前売・団体(20名以上)600円

開催要項などの詳細は当館ホームページにてお知らせします。

瀬戸内海歴史民俗資料館のイベント

無料・要事前申込

瀬戸内海国立公園90周年記念事業

れきみんで瀬戸内海を楽しむ見学ツアー

地質や気象、漁業などさまざまな分野の講師をお招きし、毎回視点をえて開催する全6回のツアーです。ミニレクチャーや展示室見学、展望台からの景色を見ながらのお話など、瀬戸内海を楽しみながら学びます。



日時等：

- 5月11日(土)「瀬戸内海国立公園」
大林めぐみ氏
(環境省中国四国地方環境事務所国立公園管理官)
- 7月20日(土)「大地の成り立ちから見た瀬戸内海」
長谷川修一氏(香川大学特任教授・名誉教授)
- 8月10日(土)「瀬戸内の気象」(仮)
寺尾徹氏(香川大学教授)
- 9月21日(土)「船の道 瀬戸内海」
高松海上保安部職員
- 10月26日(土)「山装う五色台散策」
水沼佑太氏(OMUSUBI HIKE登山ガイド)
- 11月9日(土)「下笠居の漁業」
西谷定憲氏(下笠居漁業協同組合職員)

時間：10:00~11:30

会場：瀬戸内海歴史民俗資料館

定員：各回25名(先着順)

申込期間：① 4月2日(火)~、②・③ 6月11日(火)~、
定員になり次第終了

④~⑥の詳細・申込方法は後日お知らせする予定です。
瀬戸内海歴史民俗資料館ホームページなどでご確認ください。

申込方法

電話、「香川県電子申請・届出システム」(*)を利用したインターネットから。
申込の際に、氏名、電話番号、イベント名をお伝えください。

申込先：瀬戸内海歴史民俗資料館 TEL.087-881-4707

カフェポットミュゼ

くつろぎのひとつときに、カフェポット ミュゼ
をご利用ください。特別展「美が結ぶ 皇室と
香川」展特別メニューもご用意しております。
営業時間：9:00~17:00(オードブル16:30)



ミュージアムショップ

1階ミュージアムショップでは、当館オリジナルグッズのほか、特別展「美が結ぶ 皇室と香川」展関連グッズも取り揃えております。
営業時間：9:00~17:00



香川県立ミュージアム

〒760-0030 高松市玉藻町5番5号
TEL.087-822-0002(代表) FAX.087-822-0043
https://www.pref.kagawa.lg.jp/kmuseum/kmuseum/index.html



【分館】瀬戸内海歴史民俗資料館

〒761-8001 高松市亀水町1412-2
TEL.087-881-4707 FAX.087-881-4784
https://www.pref.kagawa.lg.jp/kmuseum/setorekishi/index.html



【分館】香川県文化会館

〒760-0017 高松市番町1丁目10番39号
TEL.087-831-1806 FAX.087-831-1807
https://www.pref.kagawa.lg.jp/kmuseum/kmuseum/tunkakaikan/kin.html

